

組織名	（農）たてやま営農組合（代表：坂井 真信）	農業地域類型	中間農業地域
経営理念	潤地共生（地域とつながり盛り上げる）	社員等	構成員17名、常時雇用5名
経営面積	45.0ha（水稲27.0ha、飼料用米5.4ha、大豆10.5ha、サトイモ0.9ha、モモ0.6ha、リンゴ0.6ha） イチゴ用ハウス3棟（3,200㎡）、水稲育苗ハウス20棟（2,800㎡）、ブドウ用ハウス1棟（250㎡）		



1. 経緯

- 平成8年2月、立山町上金剛寺（かみこんごうじ）集落において、県補助事業の活用により、水稲・大豆の共同作業を行う任意組織の営農組合を設立。
また、水稲育苗センターの整備と併せた**経営基盤強化を図ることを目的**に、同年10月、（農）たてやま営農組合を設立した。
- 冬期間の収益確保として、平成9年から白ネギ等の試作を重ねるとともに、県の勧めにより導入したモモ（平成16年～）・リンゴ（平成18年～）・イチゴ（平成28年～）の**品質向上に努めたことで収入が得られるようになり、周年作業体系の確立につながった。**
- とやま農業未来カレッジ（県就農支援施設）の**研修生の受入れをきっかけ**に卒業生2名を従業員として平成27年と令和5年に雇用したほか、経験を重ねたアルバイト1名を平成25年に、ブドウ農園の元経営者1名を令和元年に雇用した。
- 周辺農業者の高齢化に伴い**構成員以外の農地も預かるようになったため、設立時の約21haから約45haに経営農地が増加**し、現在、代表（40代）と代表の父親、従業員4名（30～40代）を中心に基幹的農作業を行っている。

2. 課題と対策

- 高齢化により、管理作業に従事できる構成員が年々減少しているため、**新たに雇用した従業員4名により対応**している。

3. 特徴的な取組や工夫していること

- 園芸作物の取組は、採算が合わないなどの苦労もあったが、**他の法人からの情報や経験の積み重ねにより、ノウハウが蓄積**されたことで、現在は、**イチゴやモモが収益の柱**となっている。
- 自社の直売所で販売しているイチゴ、モモ、ブドウは、地元の人や観光客の人气が高く、**特にイチゴは、栽培面積を導入時の1,500㎡から3,200㎡に増やしたことで、コメと並ぶ売上高（全体の約4割）**になった。
- ブドウは従業員1名が専任、ブドウ以外の品目は、他の従業員3名が代表の指導のもと、主体的に取り組んでいる。
利益率が高い品目（イチゴ・モモ）は重労働になることもあるが、**売上次第でボーナスを増やすことにより、従業員のモチベーションを高めている。**
- 従業員が働きやすいフレックスタイム制の導入等により、**子育て世代に配慮**している。

4. 今後の目標

- 若手従業員の意見を取り入れながら、新たにイチゴの加工などの取組にチャレンジし、**更なる経営発展**を目指す。



収益性の高いイチゴの取組



収益性の高いモモの取組



桃直売所